中日双语心灵读物

秋之物语

主编／王秀文　编著／王秀文　喜　君

附送MP3光盘

華東理工大學出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

秋之物语

主编／王秀文　编著／王秀文　喜　君

附送MP3光盘

華東理工大學出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

秋之物语(附送 MP3 光盘)/王秀文主编;王秀文,喜君编著.—上海:华东理工大学出版社,2009.8

(中日双语心灵读物)

ISBN 978-7-5628-2537-1

Ⅰ.秋... Ⅱ.①王...②王...③喜... Ⅲ.①日语-汉语-对照读物 ②散文-作品集-世界 Ⅳ.H369.1:Ⅰ

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 054911 号

中日双语心灵读物

秋之物语(附送 MP3 光盘)

主　　编 / 王秀文
编　　著 / 王秀文　喜　君
责任编辑 / 苏　靖
责任校对 / 张　波
装帧设计 / 戚亮轩
出版发行 / 华东理工大学出版社
地　址:上海市梅陇路 130 号,200237
电　话:(021)64250306(营销部)
(021)64250787(编辑室)
传　真:(021)64252707
网　址:www.hdlgpress.com.cn
印　　刷 / 江苏句容市排印厂
开　　本 / 710mm×1000mm　1/16
印　　张 / 9.5
字　　数 / 132 千字
版　　次 / 2009 年 8 月第 1 版
印　　次 / 2009 年 8 月第 1 次
印　　数 / 1—6000 册
书　　号 / ISBN 978-7-5628-2537-1/H·826
定　　价 / 22.00 元(附送 MP3 光盘)
(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

编写说明

本套《中日双语心灵读物》以春夏秋冬四季为主题，采用中日文对照的方式，向读者全方位地展示日本的社会及文化习俗。全套丛书由大连民族学院日语系的数名教师编写而成。其编写目的是想让读者感受原汁原味的日语，增强语感，扩大日语词汇量，熟悉更多的日语表达方式，同时也帮助读者更多地了解日本社会、文化知识，提高中日跨文化沟通的能力。

笔者在编写过程中注意了以下几点：

一、关于文章的选择。本系列读物的文章均选自日本刊物或日文网站。在选材时充分注意了文章体裁、题材的多样性，注意了文章内容的知识性、可读性和趣味性，同时还注意了语言的规范性、文章的长度和难易程度。就一些过长和内容略有不适的文章，在不影响整体内容、结构的前提下略作了压缩和删减，并在文章的末尾注明了文章的出处。

二、关于读物的编写。首先是“振假名”（即标读音），在原文文章中适当地标注了“振假名”以方便读者阅读，标注的原则是选择难读词语、不常见词语和容易读错的词语。其次是“词语解释”，在原文文章中适当地选择部分词汇进行注音和解释，词汇的选择原则是挑选一些生词、难词和多义词等。解释时原则上只注明该词在文章中的词义或适当地说明该词的社会、文化背景，以帮助理解。然而，有些汉字词汇虽为生词、难词，但是在词义与汉字基本一致的情况下，即中国人见其词可解其意的情况下不再另做解释。

三、关于参考译文。每篇文章后均附中文译文供读者阅读时参考。中文译文的翻译以直译为原则，即力求逐词逐句反映原文的含义，而基本上没有进行文饰。因此，有些翻译从汉语角度看可能不够华美和流畅，这是由于翻译的原则不同而产生的，请予理解。

在此系列读物出版之际，首先谨向相关文章的作者表示诚挚的感谢，是他们为我们提供了体验日语和感受日本的美文；其次向华东理工大学出版社的编辑表示感谢，是他们的创意为读者提供了日语学习的园地。随书附送的 MP3 光盘也将此书变成了有声读物。本套丛书在编写、翻译过程中难免存在一些问题，欢迎广大读者批评、指正。

本书主编

2009.6

目次

1 ❶ 9月　台風・彼岸
9月　台风・彼岸

5 ❷ 爽秋
爽秋

10 ❸ 菊の節句
菊花节

14 ❹ ちちろちちろ
蟋蟀啊蟋蟀

19 ❺ 柿の秋
柿子的秋天

24 ❻ 新米が出来ました
新米成熟了

29 ❼ 敬老の日
敬老日

32 ❽ 月見のすすき
赏月的芒草

36 ❾ 毒梨と茶わん
毒梨和茶碗

42 ❿ 団子考
米粉团考

47 ⓫ 柿のある風景
柿子的风景

54 ⓬ 台風と和風
台风与和风

59 ⓭ 北海道の秋
北海道的秋天

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

64 ⑭ **10月　スポーツ・秋祭り**
10月　体育活动・秋季庙会

68 ⑮ **体育の日**
体育节

71 ⑯ **浸透しない秋休み**
尚未渗透的秋假

76 ⑰ **石榴**
石榴

80 ⑱ **天高く、馬肥ゆる秋**
天高马肥之秋

84 ⑲ **白日夢のように**
犹如白日梦

89 ⑳ **自然薯**
野山药

93 ㉑ **11月　文化の日・結婚式**
11月　文化节・结婚典礼

98 ㉒ **昔も今も凧が舞う**
古今风筝舞

104 ㉓ **紅葉**
红叶

109 ㉔ **七五三**
七五三

113 ㉕ **秋の夜長に**
在秋季长夜里

118 ㉖ **勤労感謝の日とは**
何谓勤劳感谢日

目次

122 ㉗ **里の秋**
乡间的秋天

127 ㉘ **紅葉の海**
红叶的海洋

132 ㉙ **魚の群れる空**
鱼儿满天空

137 ㉚ **年齢の旬・人生の秋**
年龄旺季・人生之秋

1. 9月 台風・彼岸

9月に入ると学校の休暇が終わり、新しい学期が始まる。まだ暑さは残っているが、心理的には夏ではなく、秋の到来を感じさせる言葉やイメージがテレビや雑誌・新聞に数多く現れる。

台風

7月ごろから何回も台風が日本を襲うが、9月に入っての台風がいちばん話題になる。米作を中心とした伝統が千年以上も続いた日本では、稲の花の咲く時期に来る台風がもっとも大きな関心事だったからだ。

防災設備や対策の完備した近代とちがい、昔は台風は恐ろしいものであり、逆らうことのできないものだった。日本人の心に宿る無常感は、もちろん仏教の影響を強く受けたものだが、その底には自然の猛威に対して抵抗することのできない人間の無力感が流れていた。それは、自分の運命を天から与えられた物と観ずる心情にも通じる。

また、日本の家屋が木や紙でつくられたもろい構造であるのも、自然の力に対する人為の無力さを諦観した人々が、家屋を仮の住まいとみなす心情を反映したものだった。

一方、台風は米作農業(水田耕作)に必要な大量の雨をもたらすものとして自然の慈愛の現われでもあった。日本の古い格言に「待てば海路の日和あり」とか「果報は寝て待て」といったものが多いのも、人為よりも自然の恵みの大

きさを意識した人々の英知を示すものだった。

彼岸

9月23日は秋分の日で、3月21日の春分の日とともに祝日になっている。伝統的には彼岸と呼ばれ、仏教思想にもとづいたものだ。彼岸とは向こうの岸の意味で、此岸つまり現世に対して「あの世」を指す。秋分の日をはさんだ7日間が彼岸で、この間に先祖の霊を祭り、お墓参りをする。

ただ、現在では宗教的な意識は薄れ、単なる休日になっている。

そして「暑さ寒さも彼岸まで」という昔からの言葉にあるように、このころに季節の変わり目を感じる人が多い。秋分の日を過ぎると、柿・栗・芋・松茸など秋の果物や野菜が出回り、人々の話題にもよく上るようになる。そして、北の方から紅葉のニュースが日々南下する。

（『日本を知る　日本語の基礎　中級から上級へ』による）

温馨词汇

米作［べいさく］	种稻，稻谷收成
恐ろしい［おそろしい］	可怕，恐怖
逆らう［さからう］	违抗，抗拒
宿る［やどる］	存在，有
猛威［もうい］	来势凶猛
観ずる［かんずる］	彻悟，看破
もろい	易坏的，脆弱的
仮の住まい［かりのすまい］	临时住所
みなす	看作，当作

諦観［ていかん］	看破，想开
待てば海路の日和あり［まてばかいろのひよりあり］	等待终会时来运转
果報は寝て待て［かほうはねてまて］	有福不用忙
恵み［めぐみ］	恩惠，施舍
英知［えいち］	睿智，洞察力
彼岸［ひがん］	对岸，来世，春分（秋分）季节
此岸［しがん］	此岸，尘世
あの世［あのよ］	来世，黄泉
はさむ	隔，夹
暑さ寒さも彼岸まで［あつささむさもひがんまで］	热到秋分，冷到春分
変わり目［かわりめ］	转变期，交替的时候
出回る［でまわる］	上市
日々［ひび］	天天，每天

美丽译文

9月　台风·彼岸

进入9月，学校的假期结束，新学期开始。虽然酷暑犹存，但心理上已不是夏天，令人感觉到秋季到来的词语和意象大量地出现在电视、杂志和报纸上。

台风

从7月开始，台风已数次侵袭日本。进入9月，台风更是成为热门话题。因为在以稻作为中心的传统延续了一千多年的日本，在水稻扬花时期袭来的台风是人

们最关心的事情。

与防灾设施和对策完备的近代不同，过去的台风很可怕，是不可抗拒的。人们心中的无常观当然是深受佛教影响，但是在其深处却流动着人们面对来势凶猛的自然而无法抵抗的无能为力之感。这与人们彻悟到自己的命运是天赐之物的心情是相通的。

另外，日本的房屋是由木材和纸张建造的，脆弱的构造也反映出人们在看破了大自然的力量面前人力的无能后而将房屋当作临时住所的心情。

另一方面，台风给稻作农业（水田耕作）带来必要的大量降雨，也是大自然慈爱的体现。日本的古老格言中有很多“耐心等待终会时来运转”、“有福不用忙”等说法，体现了人们意识到大自然的恩惠大于人力的睿智。

彼岸

9月23日是秋分日，3月21日是春分日，都是节日。传统上称为“彼岸”是基于佛教思想。彼岸是对岸之意，是针对此岸即现世而指“来世”。以秋分日为中心的七天是彼岸，在此期间祭祀祖先之灵、扫墓。

不过，现今宗教的意识已经淡薄，变成了单纯的假日。

正如古语所说的“热至秋分、冷至春分”，这时很多人能感受到季节的转换。一过秋分日，柿子、栗子、芋头、松茸等秋季的果蔬就会上市，也经常会成为人们的话题。另外，关于红叶的新闻也由北方开始逐日南下。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

2. 爽　秋

早朝よりざあーっと降り出した雨、ほどよく大地を潤して、いわゆる、いいおしめり。そのおかげなのか、雨後の心地よさ、前日までの熱気がどこかへ飛んで行ったよう。

素肌がぴくんとするような碧空、はや9月。

この辺りの稲田に眼を向けると、稲穂は頭を垂れながら一面を黄色に染めていた。

「もう収穫の時期なんだ。秋だなあ。」

新米が、店頭に並ぶ日も近い。この梅雨時の極端な日照不足とやらで、今年の作柄は？あまりニュースにならないところをみると、気にするほどの不作にはならないっていうことかな。

ガソリンが高い、野菜が高い、このうえ米も高くなんてことにならないことを祈る。

日暮れとともに虫の声がしきり。が、秋の虫と言ったって何が鳴いているやら、と思う。

虫の声がいいねって言ったって、「リーリー、リーリー」とかなり大声だ。これしか耳に入ってこない。こりゃ何だい、虫に訊ねても返事はない。そりゃそうだ。

「アオマツムシかなあ。」草むらがこの周りには少ないから、どうも樹木からしい。

『坊っちゃん』が、生徒に蚊帳のなかへイナゴを入れられて、「バッタを入れたのは誰だ。」と大騒ぎする場面があります。「違うぞなもし、イナゴぞなもし。」と返されて、一本取られるのも合点です。これは余談。

そうしたアオマツムシの虫の声、これ外来種だそうですが、それはそれとして趣きがあるもんだなと。虫たちも日暮れから3～4時間がよく鳴くようで、それ以降急に静かになったりもするよう。

「鳴きくたびれるんじゃあないのかな。」って意見もあり。

「秋の夜長を鳴きとおす。」と歌われていますが。

さて、どっち？

「知らないよ、私は。」

「虫が鳴くのは雌を誘うためなんだから、一晩中じゃあなくてもことは足りるってね。」

「威嚇しているのかも。」

虫たちの恋の季節、秋。

栗の青い毬は、もう弾けたかな。

虫たちの声は細く遠ざかり、凌ぎやすい夜半。

（http://nagoya.cool.ne.jp/nobuharu2933/omoumamani/omoumamani3.htm#kikubiyoriによる）

温馨词汇

早朝［そうちょう］	早晨，清晨
ほどよい	适当，恰好
潤す［うるおす］	湿润，弄湿，浇灌
おしめり	小量的雨水，下雨

心地よい［ここちよい］	惬意，畅快
熱気［ねっき］	炎热空气
素肌［すはだ］	裸露的皮肤
はや	已经，早已
店頭［てんとう］	门市，铺面
作柄［さくがら］	收成，年成
不作［ふさく］	歉收，收成不好
日暮れ［ひぐれ］	黄昏，傍晚
アオマツムシ	青松虫
草むら［くさむら］	草丛
イナゴ	蝗虫，蚂蚱
大騒ぎ［おおさわぎ］	大吵大嚷，大混乱
合点［がってん］	认可，同意
余談［よだん］	闲话，多余的话
趣き［おもむき］	情趣，风格
くたびれる［くたびれる］	累，疲乏
歌われる［うたわれる］	称誉
毬［まり］	球
弾ける［はじける］	裂开
遠ざかる［とおざかる］	远离
凌ぐ［しのぐ］	忍耐，忍受

美丽译文

爽　秋

清晨开始“哗哗”地下了一场大雨，适时地滋润了大地，真可谓是一场好雨。得益于此，雨后很是畅快，一直以来的炎热空气不见了。

碧空如裸露的肌肤，已是9月了。

眺望附近一带的稻田，见稻穗已经低垂，将一片稻田染成金黄色。

“收获的季节到了。秋天来了！”

新米上市已指日可待。由于梅雨期日照严重不足，不知今年收成怎样。从新闻没有播报来看，似乎年成不会太差。

汽油贵，蔬菜贵，我希望大米不要再贵了。

黄昏来临，昆虫不停地鸣叫。虽说是秋天的昆虫，但是什么虫子在叫呢？

昆虫的叫声很好听，但“呖—呖—呖—呖—”的叫声很大，听到的只有它。它是什么？问昆虫也不会回答。那是理所当然的。

“或许是青松虫吧。”这附近草丛很少，好像是从树上传来的。

《公子哥》中有一个场面。学生的蚊帐中被放入了蚂蚱，学生大乱：“是谁放的蚂蚱？”回答是：“没有啊。没有蚂蚱呀！”看来只有抓到一只才认账。这是题外话。

那种像青松虫一样叫的昆虫据说是外来品种，但它有它的情趣。昆虫似乎是从黄昏开始叫三四个小时，之后突然安静下来。

“是叫累了吧？”有人认为。

“它在秋天长夜叫通宵。”有人赞誉说。

那么，究竟哪个对？

“我不知道。”

“听说昆虫鸣叫是为了吸引雌性，所以不必叫一整晚吧？”

“或许是在恫吓。”

秋季是昆虫们恋爱的季节。

栗子的青球已经裂开了吧？

昆虫们的叫声变得细微，渐渐远去。已是舒服的深夜。

3. 菊の節句

桃の節句、端午の節句は現在も全国的に行われている行事で誰もが知るところですが、「菊の節句」があるというのをご存じですか。

これは中国から伝わった五節句のひとつで「重陽の節句」ともいい、陽(奇数)の最も大きい数字九が重なる9月9日のことです。九という数字は中国でも古来より神聖視されており、日本の文化にも浸透していました。例えば、江戸時代には正午を「ここのつ」といい、頂点の数としていましたし、仏教でも極楽浄土を九品浄土といいます。結婚式の三三九度も九を最高の徳を表わす数字とする思想を受け継いでいるのです。

平安時代には、重陽の節句に観菊の酒席が華やかに催されていました。酒に菊の花を浸して飲むと長生きするという「菊酒」もこの頃にはよく行われています。また、前日に菊の花に綿をのせてその露をうつしとり、翌日の九日にその綿で体を拭くと長寿を保つともいわれ、この「着綿」の行事は貴族のあいだで広まっていたといいます。菊の持つたくましい生命力に少しでもあやかりたいというのが人々の願いだったのです。

これら菊に対する信仰は、やはり中国の故事に由来しています。周の時代、「菊慈童」という名の男があるとき菊の露が落ちて谷川となっているところを見つけました。その水を汲んで飲むと、甘露のように甘く、心がさわやかになり、やがて仙人となって八百歳まで長生きしたというのです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com